

3D プランニングツールの進化とジルコニアによる上部構造が治療をどう変えるか

岡崎秀徳



有限会社ディエスケイ代表取締役

日本歯科技工学会認定士

日本口腔インプラント学会インプラント専門歯科技工士

日本顎咬合学会認定歯科技工士

歯科におけるインプラント治療は、ブローネマルク教授の骨結合型インプラントの登場以来、予知性のある治療法として認知されその需要も増えてきています、しかしながら一部で適切な手順、診断、知識を習熟しないままで行われたインプラント治療は、チェアサイドにおける地雷、ラボサイドで仕込まれた時限爆弾となりインプラント治療に対する社会的疑問を提示された時期がありました。

また、歯科用CTスキャナーの普及、インプラント治療医院の乱立による競争激化と低価格化、インプラントメーカーのM&Aや低価格帯のインプラントの登場などは、一部の歯科医師からは「もうインプラントは終わった、これからはペリオだ！ホワイトニングだ！」とまで言われることもありました。

しかしながら、インプラントの低価格化はかつてのようなお金持ちのための特別な治療から、一般庶民でも受けられる治療法として認知されただけで、適切な診断と方法をもって治療を行えば、有効な治療法であり、インプラントの生存率の高さから10年、20年といった超長期的な口腔内環境に対応した補綴の維持が欠かせない事は、責任は伴いますが、チェアサイドラボサイドに固定客がKeepされることを意味しています。

この結果、補綴主導型、患者主導型のインプラント治療を過不足なく行うためチェアサイド、ラボサイドの連携が重要となり3Dプランニングツールを用いた患者説明、ガイドOpeによる手術、CAD/CAMによる上部構造の作成などはもはや一般的になってきたかと思えます。

3DプランニングツールやCAD・CAMといったデジタル技術の進歩、ジルコニアに代表される素材の進歩は、熟練した歯科技工士にはその経験を、経験の浅い歯科技工士にも活躍の場を与えてくれる歯科技工サイドにとって救いの神となる可能性があります。

今回は、スマートフュージョンにみられる3Dプランニングツールの進化やジルコニアを上部構造製作に取り入れる事でどの様に治療内容が変化し、これらの事象に対応しているのかをお話したいと思います。

略歴

- 1985年 大阪歯科学院専門学校歯科技工専攻科卒業
- 1985年 デンタルスタジオ国分寺開業(香川県高松市)
- 1992年 有限会社ディエスケイへ組織変更
- 2013年 業務拡張のため現住所へ社屋移転(香川県高松市)

学会発表内容:

- ゴールドマージンテクニックによる陶材焼付け冠の製作方法
- 圧入セラミックを使ったコーヌス義歯の製作法
- 熱可塑性樹脂を使った暫間補綴物の製作法
- 臨床的で簡便な咬合位の確定法(ゴシックアーチ)
- コーンテクニックによる上部構造製作法
- コーンテクニックを用いたCAD/CAMインプラント上部構造製作法(3年間の臨床評価について)

TEL:087-874-1567 FAX:087-874-3197 E-Mail: hidenori.okazaki@dsk-web.net